



- 日 時 令和3年7月26日（月）～ 28日（水）
- 場 所 ローマ（FAO本部）（対面参加とオンラインのハイブリッド形式）
- 出席国 国連加盟国各国閣僚級・国際機関の長、市民社会及び民間企業関係者  
**我が国からは野上農林水産大臣（対面）及び鷺尾外務副大臣（オンライン）が出席。**  
（120を超える閣僚が参加）
- 概 要 ○本年9月に開催される**国連食料システムサミット(首脳級)の準備会合。**  
○同サミットは、国際的に**地球温暖化や生物多様性**への関心が高まる中、**2030年までのSDGs達成に向けた「行動の10年」の一環として、食料システム\*の変革に向けた具体的な行動**を議論。**食料システムをテーマとする初のサミット。**  
（※食料システムは、食料の調達・生産、加工、流通・消費などに関わる様々な活動を含む。）  
○プレサミットでは、各国閣僚他関係者が一同に集まり、**食料システム変革に向けてそれぞれの考えや取組を持ち合い議論。**
- 議論のテーマ：
  - ①**すべての人**に対する安全で栄養価の高い**食料へのアクセス**の確保
  - ②**持続可能な消費**パターンへの移行
  - ③**自然に対してポジティブ**な影響をもたらす**生産**の十分な促進
  - ④**公平な生活**の促進と**価値の分配**
  - ⑤脆弱性、ショック及びストレスに対する**強靱性の構築**

## 野上農林水産大臣のプレサミットでの主な発言内容

野上農林水産大臣は、閣僚ラウンドテーブル及び分野別セッション（イノベーション）で発言するとともに、各国の参加閣僚が行う閣僚声明を実施。

- 食料システムの変革に当たっては関係者と対話を重ねる必要。我が国は国連に報告されている中で最多の63の国内対話を実施。
- こうした対話も踏まえて、**本年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定。**
- **イノベーションの推進、バランスのとれた食生活の推進、各国・地域のおかれた自然条件等に基づいた取組の実施等が重要。**
- **東南アジア各国との間で、食料システムの変革に向けては万能（one-size-fits-all）な解決策はなく各国の状況にあわせた取組が重要等の認識を共有する共同文書に合意。また、EUとイノベーションの推進、フランスとバランスのとれた食生活に関する共同文書に合意。**



閣僚ラウンドテーブルで発言する野上大臣

## プレサミットの成果

- 9月の食料システムサミットに向け、政府に限らず、生産者、民間企業、消費者、科学者等、多様な関係者が議論に参加し、食料システムの変革に向けた**アイデアや取組内容を共有。**
- 同じ関心を有する各国等の**関係者が連携・協力するための連合（コアリション）の形成**に向けて議論。

## 我が国のプレサミットへの貢献

- 「みどりの食料システム戦略」を含め、我が国の持続可能な食料システムに向けた考えや取組を積極的に発信。特に食料システムの変革に向けては**万能な解決策はなく各国の状況にあわせて取り組むべきこと**等について強く表明。
- 食料システムサミットを契機とした**各国との連携、協力の推進の一環として、東南アジア各国、EU及びフランスとそれぞれ共同文書に合意。**



日EU間で共同文書に合意